

伝える

促す

動く

第7回 最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会 令和2年7月2日(木)開催

新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてWEB会議にて実施 (場所:国土交通省 新庄河川事務所 2F大会議室)

『伝える・促す・動く』を目標とした減災対策への取組みの継続・実施を確認

概要

- ①新規参画機関及び規約改正について
- ②令和元年度の取組状況と今後の予定について (国、山形地方气象台、山形県)
- ③情報提供 (国)
- ④その他 (国)

議事・主な意見等

- ① 3 新規参画機関及び緊急行動を踏まえた大規模氾濫時の利水ダムの参画と規約改正について承認されました。
- ② 国：大規模水害に備えた3つの目標『伝える・促す・動く』の取組状況及び今後の取組内容 (各参画機関) について説明・確認を行いました。
山形地方气象台：防災気象情報と警戒レベルの対応について説明・確認を行いました。
山形県：危機管理の為のハード・ソフトの整備及び防災啓蒙について説明・確認を行いました。
- ③ 避難所における新型コロナ感染症への対応について、水害リスク・水害ハザードマップ作成について情報提供を行いました。
・既存ダムの洪水調節機能強化に向けた「治水協定」の締結による、利水容量を活用した事前放流について情報提供を行いました。
・「マイ・タイムライン」の作成の取組を推進して行く。
- ④ あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」への転換となる「流域治水プロジェクト」について説明を行いました。

(その他意見等)

- ・「まるごとまちごとハザードマップ」のワーキングにて地域住民の防災意識の向上が出来た。
- ・全戸への「防災情報マップ」の配布は、その地域に暮らす自分達が、その土地の危険度を理解する事で効果が生まれました。
- ・新型コロナ対策として、三密を避けた分散型の防災避難所の開設を目指す。
- ・協議会を受け、住民の意識改革のため、広報で水害についての特集を行う。また、自主防災組織を作り、訓練も行っている。
- ・今後は、ソフトの一つでもある各自が災害意識を持って生活を行う意識付けが必要。

などの意見がありました。

WEB会議での減災対策協議会開催状況



協議会構成

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 新庄市長 | 舟形町長 |
| 尾花沢市長 | 真室川町長 |
| 大石田町長 | 大蔵村長 |
| 金山町長 | 鮭川村長 |
| 最上町長 | 戸沢村長 |
| 最上広域市町村圏事務組合 理事長 | |
| 山形県 防災くらし安心部 防災危機管理課長 | |
| | 県土整備部 河川課長 |
| | 村山総合支庁 建設部長 |
| | 最上総合支庁 建設部長 |
| | ◎農林水産部 農村整備課長 |
| | ◎県土整備部 砂防・災害対策課長 |
| 気象庁 山形地方気象台長 | |
| ◎農林水産省 東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長 | |
| 国土交通省 新庄河川事務所長 | |

◎：新規参画機関